

四日市で生きてきた

失人たちの痕跡を探ろう

市内には、昨年オープンした久留倍官衙遺跡公園（大矢知町）の他にも、約600カ所の遺跡があります。遺跡から発見される住まいの跡や堀跡、土器などの出土品などは、当時の生活や社会の様子を知る貴重な手掛かりになります。

市ではこれらの遺跡を適切に保存し、未来に継承することによって、まちへの愛着や誇りを深めていただきたいと思います。



四日市市内の遺跡情報を市ホームページ（HP <https://www2.wagmap.jp/yokkaichi/Portal>）で公開しています



# 四日市の遺跡

よっかいちのいせき

1 市史跡 志氏神社古墳 古墳時代（約1700年前）（大宮町）



志氏神社の境内にある市内で唯一の前方後円墳です。嘉永5（1852）年に後円部が発掘され、内行花文鏡・車輪石・勾玉・管玉・ガラス玉などの副葬品が発見され、現在は市指定文化財になっています。



出土した鏡や勾玉など

明治時代に境内が拡張されたことなどにより、前方部は削られました。現在は後円部が直径30m、高さ5.3mの規模で残っており、神社の境内から見学できます。



智積庵寺の石碑

2 智積庵寺 飛鳥～奈良時代（約1350～1250年前）（智積町）

昭和41（1966）年の東名阪自動車道の計画と翌年の水田の圃場整備を契機として、発掘調査が行われました。南北に、南から金堂・講堂・僧房が直線状にならぶ四天王寺式伽藍配置が確認されています。発見された埴伝や軒丸瓦・鬼瓦などは、くるべ古代歴史館で常設展示されています。また、現地には石碑と説明板が立っています。



出土した埴伝や瓦

3 信長によって滅ぼされた山城のいま 采女城跡 戦国時代（約530～450年前）（采女町）

内部川と足見川の合流点を南に臨む、標高50～70mの丘陵の尾根筋を利用して築かれた山城です。東西約200m南北約250mの規模の巨大な山城です。

当時この辺りを治めていた後藤氏によって築城され、永禄年間（1558～1570年）に伊勢へ侵攻してきた織田信長軍によって滅ぼされたと伝えられています。現在は市民緑地になっておりますので、山城に登ることができます。



采女城跡の遠景



空堀跡

4 東海道四日市宿資料館で貴重な出土品を展示中 四日市代官所跡 江戸時代（約410～150年前）（北町）



現在の四日市代官所跡

現在の市内中心部は、享保9（1724）年から享和元（1801）年の大和郡山藩領時代を除くと、江戸時代を通じて天領（幕府領）でした。



発掘作業

四日市代官所は幕府領支配の拠点で、現在の中部西小学校の場所にありました。平成11年に小学校の校舎建て替えに伴い、発掘調査を実施したところ、代官所敷地にあった橋や護岸などの構造が明らかになりました。現地には、説明板が立っています。

東海道四日市宿資料館 館長 長谷川 博久さん

四日市代官所跡は、まちを束ねる役所のあった場所であり、江戸時代には交通の要所でした。ここは人・もの・文化の行き交う場所で、江戸はもちろん、上方の大阪や京都とも繋がっていました。あまり知られていませんが、明治時代には三重県庁が置かれていた期間もあるんですよ。身近に遺跡があるということをお伝え、かつてはここにお堀や井戸や橋があったんだと子どもたちに思い描いてもらうために、遺跡の保存は大切だと考えています。自分たちのまちの歴史を肌身をもって感じてほしいですね。



夏休みの自由研究にお勧め！

## 第24回発掘展 ～子どものための考古学～

場所 市立図書館2階 展示コーナー  
会期 7月28日（水）～8月22日（日）  
9:30～17:00  
※月曜日・第2火曜日休館

遺跡の保護のために

貴重な遺跡を守るため、ご協力をお願いします



遺跡の範囲内で建築・工事を計画する場合は、事前に届出が必要です。（文化財保護法第93条第1項により）  
発掘届、承諾書の用紙は市ホームページからダウンロードできます。

HP ID 1001000002712